

## 惜別 松尾君を偲ぶ

2012年5月9日 松尾君の未亡人の案内で、アメリカから一時帰国した級友石部さんと共に清水寺の南通りの五条坂を登り、大谷廟の左側に有る松尾君の眠る墓前に線香を手向けつつ、色染物質会の設立に命を懸けてくれたことに感謝し冥福を祈った。

昨年(2011年)の11月12日 色染物質会の第2回総会が開かれる日 私は開催時間に少し遅れるとの連絡を松尾君の携帯に何度も入れたが発信音が鳴るだけで通じなかった。いつも確実に通じるのでおかしいなあと思いながら同窓会館へと急いだ。総会は進行中だったが、彼の姿が見えない。直ぐに坂東さんから、役員は午前中に集合し、総会の準備打ち合わせをして、昼食後の休憩中に 彼は急に気分が悪くなり、様子がおかしいので救急車を呼び、横山幹事が同乗して日赤病院に搬送されたと告げられた。車に乗る時は意識もしっかりしていたが、途中で心肺停止状態になり集中治療室で意識も戻らず 14日に帰らぬ人となった。まさに朝に紅顔 夕べに白骨の思いである。

彼は面倒見の強い、世話好きの人であった。わざわざ容量の大きいパソコンを購入し、色染物質会の設立の為に同窓会名簿から色染科、物質科の卒業生 1200人余りの住所、氏名、卒業年度、電話などを拾い出して、基本名簿を作成。設立発起人の依頼、会合、役員候補、年度幹事、入会案内、第1回総会開催と殆ど一人で切り盛りしてくれた。彼なくし今日の色染物質会の存在はあり得ない。

面倒見の良さはクラスの開催の世話や、同級生の病人見舞い、物故者全ての墓前に詣でていることにも表れている。

また、凝り性でもあり、話好きで 長電話で故事来歴から説き起こして説明してくれた。時にはその故事のあるところまで行って調べてくる程であった。昨年ホームページに掲載された亀岡と京都の山深い水尾の清和天皇の御陵を訪ねて執筆したのも松尾家のルーツを探る一端であったと思われる。

更に新しいもの好きでもあった。まだパソコンや計算機もない 45年ほど前に商品管理や顧客名簿にパンチカードの導入、次いでコピー機や印刷機をいち早く導入。商品見本や図案をコンピュータに取り込み商品が地方商店になくとも顧客に見せられるようにするなど、一歩先駆けて凝りだしていた。図案にも凝り、台湾の故宮博物館所蔵品を見学して気に入った図案の写真撮影の許可を求めてわざわざ訪台したほどである。その図案が友禅柄のヒントになると教えてくれたものである。友禅は高級品になると、柿渋紙を彫った 200枚以上の紋紙(柄紙)で刷られて染められているようで、その柄も貴重なもので主なものをインプットしていた。呉服の絹製品がウィンドーに陳列すると日光で褪色するのを改良するため、反応染料で染める小型染色機に開発試作に昭和 50年頃に協力したことが思い出される。

旅行好きも彼の特長。世界各国を奥さんとともに旅したが、なぜかアメリカ、中国には行かず、大国は面白くないと語っていた。現役引退後は名湯百選を巡り、その数 130 を超していた。山形に出張の際に洋梨を食し、果物の中でこれほど旨いものはないとわざわざ取り寄せて送ってくれたこともある。昨年珍しく高校時代の同級生に呼びかけて下呂温泉一泊の同窓会を企画したそうで予感があったのかとの奥さんの言葉。その奥さんとは高校時代からの付き合い、連れ合いで、丁度その秋に金婚式にあたり二人で記念旅行をと計画していた。それを待たずに、我々をも残して一人旅に旅たってしまった。

(合掌)

(色染・昭35年 園田英雄)